

学校教育目標		一生懸命がすばらしい～夢と志を抱き、仲間とともに主体的に生きる子どもの育成～	
a ミッション	●主体性と規範意識を身に付け 心を育てる小中連携の推進	a ビジョン	●夢や志を抱き、自己肯定感を持って仲間と力を合わせて主体的に学ぶ生徒 ●生徒の夢の実現を後押しできる専門性と人間性を兼ね備えた教職員 ●挨拶・歓声・歌声は響き渡り、生徒・保護者・地域が自慢でき誇りたくなる学校

尾道市立栗原中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
学力の向上	意欲を持ち、学習に主体的に取り組む生徒を育てる。	①課題発見・解決学習の充実を通して、主体的に学習に取り組む態度を涵養する。 ②発問やワークシートの工夫を通して、思考力、判断力、表現力等を育成する。 ③授業での振り返りの積み重ねを通して、学習内容の定着を図る。	①「主体的な学習」に関する生徒アンケートの肯定的回答 ②定期テスト等の記述式問題の無答率とB判定以上の生徒の割合 ③定期テストにおける得点率30%未満の生徒の割合	① 80%以上 ② 無答率10%以下 B判定60%以上 ③前回調査比10ポイント削減	① 76% ② 無答率14.6% B判定63.1% ③ 15.8%		① 95% ② 無答率68% B判定105% ③ ※今回は評価なし	B	①「意欲的な授業参加」「粘り強く学習に取り組む態度」「協働的な学び・考えの深化」「生活への活用」について生徒アンケートを行った。「粘り強く課題に取り組む姿勢」の項目の肯定的回答が最も低かった。意欲をもって、粘り強く課題に取り組むよう授業改善を進めていく必要がある。 ②1学期中間試験の5教科で全学年を対象として調査した。準正答以上をB判定以上としている。B判定以上の生徒が目標値を超えているが、無答率が高く約6人に1人は無答となっている。書くことに苦手意識をもつ生徒が多いので、授業や教育活動全般を通して、自分の言葉で書く活動の一層の充実を図る必要がある。 ③2同様に1学期中間試験の5教科で全学年を対象として調査した。得点率30%未満の生徒が約6人に1人あり、生徒の振り返りをもとに生徒の進歩を分析していく必要がある。基礎・基本的な学習内容の定着を図る必要がある。	○	○	○	①・問題が解けた時の喜びや試験に合格した時のうれしさを生徒が感じることができれば良いと思う。 ・今年度は、ICT機器の効果的な活用を試行している段階であると考え。授業でICTを活用することにまず取り組んでほしい。 ②無答の原因を分析し、対策を考えていただきたい。書くことが苦手というところも考えられるが、労力をかけて学ぶこと自体が価値になってきている(気が充実していない)ということはないだろうか。 ・無答率の高さが気になる。なぜ、苦手意識があるのか、なぜ、自分の言葉が出てこないのかを深堀し、対策を進めてほしい。 ③30%未満の生徒については、各教科において、具体的な手立てや支援を実施するとともに、基礎・基本的な内容の反復を徹底するなど、基礎学力の定着を図っていく。	①生徒が意欲的に取り組める課題を設定することやICT機器や教材を活用し学びを可視化することなどを通して、生徒の学習意欲を高めていく。また、ICTの活用例を交流し、効果的な活用について研修を進めていく。 ②無答の原因をテストや面談などを通して分析していく。書くことが苦手な生徒には、ワークシートなどを活用し、授業や教育活動全般を通して、書く習慣の定着を図っていく。 ③30%未満の生徒については、各教科において、具体的な手立てや支援を実施するとともに、基礎・基本的な内容の反復を徹底するなど、基礎学力の定着を図っていく。
豊かな心の育成	思いやりを持ち自己を大切にするとともに、目標を持ち一生懸命(主体的・協力的)に活動する生徒を育てる。	①組織的な生徒指導の推進のより、自己指導能力の育成を図る。 ②自己肯定感を育み、いじめを生まない望ましい学級・学年集団づくりを進める。 ③生徒会活動・部活動の活性化を図る。	①生徒アンケートの「自分たちの力で決まりを守り、活動しています」の肯定的回答 ②生徒アンケートの「落ち着いた学校生活を送ることができています。」の肯定的回答 ③(1)より良い校風創りに向け、教職員と生徒会執行部による定例会の開催。 (2)保護者アンケート「栗原中学校の生徒は、部活動に意欲的に参加している」の肯定的回答	①85%以上 ②80%以上 ③(1)月に1回実施 (2)85%以上	①75% ②74% ③(1)1学期4回実施 (2)83%		①88% ②92% ③(1)100% (2)97%	B	①1年生は肯定的評価が84.6%と目標値に達しているが、2年生は66.7%、3年生は72.2%と目標値を下回っている。日々の生活の中で規範意識を醸成するとともに、可能な行事の取組を通して、自治的活動の充実を図り自己指導能力の育成を図る。 ②1年生の肯定的評価は74.6%、2年生は70.3%、3年生は79%と全学年で目標値を下回っている。3年生は進路の実現に向けて、昨年度に比べ授業態度が各段に向上している。3年生を手本として、学校全体として、より落ち着いた学校生活となるよう取り組んでいく。 ③(1)生徒指導部を定期的に開催し、各学年の状況について情報共有し、生徒の実態や課題を踏まえ、毎月の生活目標を設定している。生徒指導部で定めた生活目標をもとに、生徒会執行部の定例会を開き、各委員会の取組の方向性を検討することができている。 (2)1年生の肯定的評価は85.6%、2年生は77%、3年生は85.6%で、特に2年生の部活動参加に課題がある。生徒面談等を通して心情を汲み取り、部活動への参加意欲を高めていく必要がある。3年生は市内春季大会、南部夏季大会、吹奏楽コンクール等に意欲的に参加し、もてる力を発揮し多くの生徒が充実感をもつことができた。	○	○	○	①② ・コロナの影響で最も制限を受ける項目である。活動に制限がある中、どのような代替案で本来の目的を達成するのを考えていく必要がある。 ③(1)・新型コロナウイルス対策で、様々な制約がある中、生徒同士のつながり、先生と生徒のつながりを醸成することこそが、最重要であろうと考える。 ③(2)・生徒アンケートの中の「自分の学校には自慢できることがある」に対して2年生が50%しか肯定的な評価がなかったのが少し残念である。	①②体育大会や修学旅行が延期となっているが、コロナの状況を見ながら、行事を設定し、コロナ対策のような代替案で本来の目的を達成するのを考えていく必要がある。 ③(1)生徒会活動において、諸活動の目的や意義を生徒・教員がしっかりと共有し、取組の充実を図り、学校生活の向上につなげていく。 ③(2)・部活動については、参加できていない生徒への働きかけを行っていく。・学校だよりやホームページで、生徒のがんばりを積極的に紹介し、学校の良さを生徒が実感できるようにする。
魅力的な学校づくりの推進	生徒が栗原中学校に愛着と誇りを持ち、地域や保護者から信頼される学校づくりを行う。	①教員の授業力向上 ②小中高連携の推進 ③学校だよりHPを定期的に更新し、学校の情報発信していく。	①(1)教職員アンケート「自らの授業改善が進んだ」の肯定的回答 (2)生徒アンケート「授業がよくわかります」の肯定的回答 ②(1)毎月1回以上の小中連携会の実施 (2)小中高の授業交流を年間3回実施 ③月に1回以上学校だよりを発行し、学校HPを更新する。	①(1)100% (2)80%以上 ②(1)100% (2)100% ③100%	①(1)88% (2)84.5% ②(1)100% (2)33% ③100%		①(1)88% (2)105% ②(1)100% (2)33% ③100%	B	①(1)88%の教員が授業改善が進んだと回答しており、それぞれの持ち味を生かして授業改善に取り組んでいる。評価について課題を感じている教員が多いので、評価の研修を進めていく必要がある。 ②生徒の84.5%が「授業がよくわかります」と回答している。生徒に興味をもたせる、理解を促す授業の工夫を進めている教員が多いことがこの結果につながっている。 ②(1)本校、栗原小、栗原北の生徒指導主事が毎月集まり、各校の状況の交流や共通的に取り組むことを協議することができている。 (2)尾道北高校との連携は、2学期に高校の科学部の活動に中学生が参加するよう取り組んでいる。 ③学校だよりやHPなどを定期的に更新し、学校の情報を発信している。生徒が制作した作品や生徒が頑張っている様子などを積極的に発信している。保護者アンケート「学校だよりやHPで学校の様子をよく知らせている」に77%の保護者が肯定的回答をしている。	○	○	○	①・これまでにオンラインでの指導についての知見が得られてきていると思われ、今後、家庭学習の指導で活用できないか、検討いただきたい。 ②・小中連携については、定期的な開催をされている点は分かるが、議題や、内容が分からないので教えていただきたい。 ③・保護者アンケートで「栗原中学校は落ち着いた環境で2年生の保護者は40%台にもかかわらず「信頼できる」「満足している」の値が高いのは期待の表れだと思います。	①(1)ほとんどの教員が授業改善に前向きに取り組んでいる。各教科の効果的な取組を校内授業研究や日々の職員室の中で交流し、広めていく。評価については、定期的な開催をされている点は分かるが、議題や、内容が分からないので教えていただきたい。 ICTの活用については、校内研修を継続的に行い、校外で更に活用が進むよう取り組む。 (2)アンケートでは8割以上が「授業がよくわかります」と回答しているが、テストの得点率30%未満の生徒の割合は約6人に1人である。生徒の進歩を分析し、手立てをうち、学習意欲と基礎的な学力の向上を図る。 ②(1)小中連携の取組を便りなどで発信するなど、情報公開を進める。 (2)行事予定表を早く配布、掲示してほしいという声があるので、2学期以降は月の半ばには掲示するよう
教職員の働き方改革の推進	職員全体が意識を持って取り組み、個々の教職員が業務改善に積極的に取り組む。	①働き方改革の意識向上 ②超過勤務時間の削減	①職員の働き方改革アンケートの肯定的回答 ②超過勤務45時間未満の完全実施	①80%以上 ②100%	①78% ②39%		①97% ②39%	C	①市教委が実施した「働き方改革アンケート」10項目の平均は78%で、市内平均に比べて若干下回っている。生徒指導に追われ、授業準備などの時間が確保ができていない状況があり教員の多忙感となっている。業務改善の取組とともに生徒指導の充実を進めていき、多忙感の軽減を図る。 ②超過勤務45時間未満の割合は、4月32%、5月56%、6月36%、7月33%であった。4か月間の平均は39%で、今後も業務改善を積み重ね、超過勤務の減少に引き続き取り組む。	○	○	○	①引き続き、働き方改革の意識向上に努める。主任・主事により各分掌の取組を整理し、業務分担の見直しや進捗管理を行う。 ②週間の授業やスケジュールを意識し、見直しをもって、業務にあたるようにする。慣例的に行われている行事について、必要なものかどうか協議し、スクラップアンドビルドを進めていく。	

【自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80
B: 80≦(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。